

2026 年度 職能別資格検定試験詳細規定

2026 年 3 月 1 日
公益社団法人日本山岳ガイド協会
試験・研修委員会

自然ガイド資格、登山ガイド資格、山岳ガイド資格 スキーガイド資格、およびクライミングインストラクター資格 共通事項

●受験資格

- ・満 18 歳以上で健康で体力があり、各資格の「受験資格における登山経験・技術基準表」に明記された所定の経験を有するものといたします。
- ・当協会正会員が新たな資格を受験する場合は、既得資格が有効期限内であることが必要です。

自然ガイドステージⅠ	通算 100 日以上 of 自然活動経験を有する者。
自然ガイドステージⅡ	自然ガイドステージⅠ資格を有する者。ステージⅠの試験から連続して受験する場合は、ステージⅠの無雪期実技試験を合格した者。 通算 100 日以上 of 自然活動経験を有し、うち 10 日以上 of 積雪期の自然活動経験を有する者。
登山ガイドステージⅠ	通算 120 日以上 of 登山経験を有し、そのうちに積雪期の雪山登山経験が 10 日間以上を有すること。
登山ガイドステージⅡ	通算 120 日以上 of 登山経験を有し、そのうちに積雪期の中でも寒さが最も厳しく降雪も多い時期であるおおよそ 12 月下旬から 2 月下旬の期間において、雪山登山経験が 20 日間以上を有すること。
登山ガイドステージⅢ	・登山ガイドステージⅡを取得し、書類審査日までに同資格として正会員入会后 2 年を経過した者、且つ同資格として 100 日以上 of ガイド実務経験を有すること。 ・ルートファインディング及び登攀技術を要する無雪期バリエーションルート 5 本以上の経験があり、全て先頭をつとめていること。 ・沢登り 1 級以上を 12 ルート以上遡行した経験があり、全て先頭をつとめていること。 ・森林限界を超える積雪期の雪山登山 40 日以上 of 経験があること。そのうち 10 峰以上はピッケルとアイゼンを使用した登山であること。 ・既に危急時対応技術講習会もしくはファーストエイド講習会を修了している者。
山岳ガイドステージⅠ	・別途「2026 年度受験資格における登山経験・技術基準表（山岳）」参照
山岳ガイドステージⅡ	・本会の「山岳ガイドステージⅠ」資格を有し、既得資格が有効期限内であること。正会員入会后 1 年 8 ヶ月以上（2 回の夏冬）のガイド経験を有する者。 ・別途「2026 年度受験資格における登山経験・技術基準表（山岳）」参照

スキーガイドステージⅠ 登山ガイドステージⅡ・Ⅲあるいは山岳ガイドステージⅠ・Ⅱ資格を持ち、バックカントリースキー歴3年以上、100日以上の経験を有する者。
また、本会正会員として、既得資格が有効期限内であること。
スキーガイドステージⅠ検定（5日間）申し込み時までにファーストエイド講習会4日間受講済であること。また、雪崩対策技術検定に合格、もしくはJAN雪崩従事者レベル1受講を受講し、免除申請済みであること。

スキーガイドステージⅡ スキーガイドステージⅠ資格を持ち、正会員としてスキーガイドステージⅠガイド実務経験が1シーズン以上（10日以上）あること。且つスキーガイドステージⅡ資格のサブガイド実務経験が5日間以上あること。
2日以上の中泊（テントもしくは雪洞等、山小屋・避難小屋は除く）5本以上のスキー山行経験を有すること。
ファーストエイド講習4日間受講済であること。また、雪崩対策技術検定に合格、もしくはJAN雪崩従事者レベル1受講を受講し、免除申請済みであること。

インドアクライミングインストラクター

- ・本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数3年以上の者。
- ・本会正会員の場合は、既得資格が有効期限内であること。
- ・技術水準：
人工壁で下記の経験を有する。
*5.12c以上のレッドポイント10本以上、5.12a以上のオンサイト10本以上。

スポーツクライミングインストラクター

- 本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数3年以上の者。
- ・本会正会員の場合は、既得資格が有効期限内であること。
- ・技術水準：
人工壁：下記の経験を有する。
*5.12c以上のレッドポイント10本以上、5.12a以上のオンサイト10本以上。
岩場：スポーツルートで下記の経験を有する。
*5.12c以上のレッドポイント10本以上、5.12a以上のオンサイト10本以上。

フリークライミングインストラクター

- ・本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数5年以上の者。
- ・本会正会員の場合は、既得資格が有効期限内であること。
- ・技術水準：
人工壁：下記の経験を有する。
*5.12c以上のレッドポイント10本以上、5.12a以上のオンサイト10本以上。
岩場：スポーツルートで下記の経験を有する。

* 5. 12c 以上のレッドポイント 10 本以上、5. 12a 以上のオンサイト 10 本以上。

トラッドルート

* 5. 11c 以上のマスタースタイルによる完登 10 本以上。

マルチピッチ

5 ピッチ以上のマルチピッチルート（*注 1）を 10 本以上完登していること（*注 2）。

*注 1) 5. 10a 以上を 3 ピッチ以上含み、5. 10a 以上を含む全体の 5 割以上のピッチをリードしていること。（ソロは除く）

*注 2) 完登している 10 本のうち 5 本以上はトラッド主体のルートであること。

当会ホームページ「ガイド資格取得」コンテンツ内「資格取得のご案内」ページも合わせてご確認ください。（https://jfmga.jp/shikaku_intro.php）

●受験申請 【すべてマイページ上で行います】（一次試験申請時提出書類）

①④⑤⑥⑦については、協会ホームページより申請書式をダウンロードの上、マイページ（検定・研修申込サイト）の新規資格取得ページよりアップロードしてください。

④⑤⑥⑦の活動歴・ガイド歴報告書については、遡って記載できるのは申請時より 5 年前までの記録といたします。

- ① 受験申請（申請ページ内のフォーマットに従ってください）
- ② 顔写真 1 枚（スマホで撮影した写真をオンライン上でレイアウトできます）
- ③ 身分証明できる書面のデータ（運転免許証、マイナンバーカードのいずれか）をスキャンし送付（電送）外国人においては在留カードの写し
- ④ 自然ガイドにあつては、自然活動歴報告書、ガイド歴がある場合にはその報告書
- ⑤ 登山ガイドにあつては、登山経験報告書、ガイド歴がある場合にはその報告書
- ⑥ 山岳ガイドにあつては、登山・登攀経歴書、ガイド歴がある場合にはその報告書、傷害保険加入（山岳特約割増付）の保険証書の写し
- ⑦ スキーガイド資格においては、スキーガイドステージⅠ資格はバックカントリースキー歴報告書、スキーガイドステージⅡ資格はスキーガイド歴・スキー山行歴報告書
- ⑧ クライミングインストラクター資格においては、受験するインストラクター資格におけるクライミング報告書、傷害保険加入（山岳特約割増付）の保険証書の写し
- ⑨ 健康チェックシート

上記書類の提出は、すべてマイページ（検定・研修申込サイト）上で行います。

※活動・経験歴報告書と健康チェックシートは、当会書式でのみ受付となります。協会ホームページのガイド資格取得コンテンツ内「一次試験申請書類一式」ページよりダウンロードしてください。

※全資格において、一次試験に合格してからでないと、二次試験の申し込みはできません。

また、申込条件等を満たしていない場合は、マイページ（検定・研修申込サイト）の試験・研修一覧（検定申込ページ）にも受験科目は表示されず、お申し込みはできません。

●ガイド資格認定

実技試験を含む全科目に合格し、且つ、受験者義務講習を修了した方へは、ガイド資格認定通知書を発行いたします。認定通知書受給者は、本会正会員団体に入会し、正会員団体より入会手続きを行います。手続きが完了したものには正会員団体を通して、本会よりガイド資格認定証（本会正会員証）およびガイドバッヂを付与いたします。

本会に入会しなければガイド活動を行うことはできません。

●資格更新について

- ・本会正会員となりますと、資格は3年間の資格有効期限内に4ポイント以上の資格更新研修を修了することで更新されます。
- ・本会会員が新しい資格を取得すると、取得年度からの新しい有効期限が発生します。また、既に取得している他の資格は、新たに取得した資格の有効期限と同一の有効期限が付与されます。

【更新の流れ】すべてマイページ（検定・研修申込サイト）上より行います。

①更新研修申込+研修費納入

↓

②更新研修履修

↓

③研修レポート提出

↓

④更新研修修了書発行

↓

⑤4ポイント履修修了

↓

⑥全ての所持資格の更新（※資格有効期限内の所持資格に限る）

**自然ガイド、登山ガイド、山岳ガイド、スキーガイド、
クライミングインストラクター
資格共通試験**

●筆記試験（一次試験） オンライン申請となります。

- ・一次試験合格者が二次試験（実技検定試験・義務講習等）を受験することができます。
- ・筆記試験料 27,500円（税込）
- ・筆記試験の実施は、全資格同時に行います。
- ・他の資格で一次試験を合格している場合は筆記試験の2科目の共通科目が免除されるため、受験料は22,000円（税込）となります。ただし、クライミングインストラクター資格の所持者が自然ガイド、登山ガイド、山岳ガイドを受験する場合は、共通科目を含めた全科目を受験する必要があります。

●一次試験の有効期限

- 一次試験の合格有効年数は、合格日から5年目の当該日までとなります。
- 期限内に所定の実技検定試験をすべて合格する必要があります。

●筆記試験科目

試験科目	出題内容
共通科目 基礎的知識	① スポーツ科学の知識 ② 高校教育レベルの理学的基礎知識 （地学、生物、物理・化学的な基礎知識） ③ 山村の経済・文化・歴史・民俗の知識 ④ 自然環境の知識と保護保全利用について
共通科目 ガイド業務関連知識	① ガイド業務関連法 ② ガイド業務関連の歴史 ③ ガイド倫理およびマナー ④ サービス業としてのガイド業について
専門科目及び小論文は、受験資格によって異なります。	
自然ガイド 専門科目 ガイド専門知識	① ガイドの技術一般、解説技術、用具に関する知識 ② ガイド活動エリアの自然の知識 ③ 気象の知識 ④ 読図の知識 ⑤ エコツーリズムなど自然環境の保全や利用に関する知識
自然ガイド 専門科目 安全管理	① 安全管理知識および事故予防に関する知識 ② 行動中の健康管理に関する知識 ③ 環境要因による疾病・怪我に関する知識 ④ セルフレスキュー・危急時対応に関する知識 ⑤ ガイドに必要なロープ技術について
自然ガイド 小論文	・ガイドの役割や責務、およびガイドの資質について問う ・自然の知識と解説能力を問う

登山ガイドステージⅠ 専門科目 ガイド専門知識	① 登山技術一般、山岳および登山道に関する知識 ② 山地、里山を中心とする植物、動物、鳥類の生態系などに関する自然の知識 ③ 気象の知識 ④ 読図の知識 ⑤ エコツーリズムなど自然環境の保全や利用に関する知識
登山ガイドステージⅠ 専門科目 安全管理	① 安全管理知識および事故予防に関する知識 ② 行動中の健康管理に関する知識 ③ 環境要因による疾病・怪我に関する知識 ④ セルフレスキュー・危急時対応に関する知識 ⑤ 登山ガイドに必要なロープ技術について
登山ガイド 小論文	・ガイドの役割や責務、およびガイドの資質について問う ・自然の知識と解説能力を問う

登山ガイドステージⅡ 専門科目 ガイド専門知識	① 登山技術一般、山岳および登山道に関する知識 ② 山地、里山を中心とする植物、動物、鳥類の生態系などに関する自然の知識 ③ 気象の知識 ④ 読図の知識 ⑤ エコツーリズムなど自然環境の保全や利用に関する知識 ⑥ 積雪期の知識
登山ガイドステージⅡ 専門科目 安全管理	① 安全管理知識および事故予防に関する知識 ② 行動中の健康管理に関する知識 ③ 環境要因による疾病・怪我に関する知識 ④ セルフレスキュー・危急時対応に関する知識 ⑤ 登山ガイドに必要なロープ技術について
登山ガイド 小論文	・ガイドの役割や責務、およびガイドの資質について問う ・自然の知識と解説能力を問う

山岳ガイド 専門科目 ガイド専門知識	① 登山技術一般、山岳および登山道に関する知識 ② 山地、里山を中心とする植物、動物、鳥類の生態系などに関する自然の知識 ③ 気象の知識 ④ 読図の知識 ⑤ エコツーリズムなど自然環境の保全や利用に関する知識 ⑥ 積雪期の知識
山岳ガイド 専門科目 安全管理	① 安全管理知識および事故予防に関する知識 ② 行動中の健康管理に関する知識 ③ 環境要因による疾病・怪我に関する知識 ④ セルフレスキュー・危急時対応に関する知識 ⑤ 登山ガイドに必要なロープ技術について
山岳ガイド 小論文	・ガイドの役割や責務、およびガイドの資質について問う ・自然の知識と解説能力を問う

スキーガイド 専門科目 スキーガイド専門知識	①コース選択とガイドング技術 ②装備についての知識 ③雪山の地形 ④雪崩発生メカニズム ⑤雪山の科学 ⑥意思決定や人間行動・認知について
スキーガイド 専門科目 雪山の安全管理	①雪山における気象の特徴 ②雪山の地形と雪崩回避の技術 ③雪山における体調管理 ④セルフレスキューの方法 ⑤雪崩ハザードの評価と予測・ハザードとリスク
スキーガイド 小論文	①ガイドの役割や責務、およびガイドの資質について問う ②自然の知識と解説能力を問う

クライミングインストラクター3資格 安全管理とクライミングの基礎概念	①リスクマネジメント ②安全管理 ③インストラクター業務知識 ④フリークライミング概論と倫理
クライミングインストラクター3資格 専門知識	①クライミング技術について ②クライミングギアの知識 ③ファーストエイドに関する知識 ④スポーツ科学 (トレーニング理論、故障とケア、栄養学)に関する知識 ⑤インストラクター概念
クライミングインストラクター3資格 小論文	インストラクターの役割や責務、および インストラクターの資質について問う

受験者義務講習

自然ガイド・登山ガイド・クライミングインストラクター3資格限定必須科目

- ・受験者義務講習会は、ガイドの安全管理にとって重要な科目となっています。本科目を受講しない場合には認定通知書が発行されないため、予め講習会受講日程を把握し受講に臨んでください。
- ・当協会の他の資格を所持していて、既に危急時対応技術講習を受講している場合は、この講習は免除されます。

受験者義務講習会および講習受講料（全て税込表示）

講習項目	講習地	日数	講習受講料	備考
危急時対応技術講習	日本国内	2日	¥36,300	検定は行なわない

※危急時対応技術講習会の申込資格について

- ・自然ガイド資格の場合は、「無雪期自然観察ルートガイディング、自然解説技術、安全管理技術」の受講後、あるいは、免除申請を行ってからとなります。（検定の可否は問いません）
 - ・登山ガイド資格の場合は、「安全管理技術」と、「ルートガイディング 自然解説技術」の両科目の受験後（「ルートガイディング 自然解説技術」については免除申請を行ってから）となります。（検定受験の場合、可否は問いません）
- ※クライミングインストラクター3資格については、一次試験の全科目を合格していれば申し込みができます。

●受験者義務研修・講習会内容

講習科目	講習内容
危急時対応技術講習	① 安全管理 ② 危急時の初期対応 ③ 危険の予知と対応・リスクマネジメント ④ 気象判断・法的責任・保険 ⑤ ロールプレイによる事故処理シミュレーション

●怪我、病気その他、特別な理由で有効年数内に試験または義務講習会が受けられない事態が発生した場合は、それを証明する書類（診断書または本人の理由証明書など）を提出し、本会試験・研修委員会の審議に諮り期間の延長が認められる場合があります。

●結果通知に関しては可否のみであり、内容、詳細の問い合わせについては対応できかねます。

●当詳細規定に記載の金額は全て税込表示です。

職 能 別 実 技 検 定 試 験

実技検定試験は、ガイドの資格別に期日、開催地が異なります。期日を間違わないように申し込んでください。

実技検定試験（二次試験）に必要な申請

すべてマイページ（検定・研修申込サイト）上で手続きを行ってください。

二次試験は、一次試験に合格してからでないと申し込みはできません。また、申込条件が設けられている科目は、条件を満たさない限り、マイページ（検定・研修申込サイト）の試験・研修一覧（検定申込ページ）に表示されず、お申し込みはできません。

※住所、お電話番号、メールアドレス等に変更が出た場合は、マイページの「登録情報」ページより修正してください。

自然ガイドステージ I

●職能範囲

国内において無雪期に、人間社会と隣接する里地・里山・山地・高原において自然、歴史、民俗等を解説する自然ガイド行為を行うことができます。

※自然ガイド単独資格者は、ピークハントが主たる目的となる登山ガイドの業務は、できません。

<活動エリア>

雪の無い時期の高原、山野、里地里山、アクティビティの対象として沢を使う沢あそび。

上高地、尾瀬ヶ原、霧ヶ峰等の高原など。

ただし山岳地においても公共交通手段でアプローチできるフィールドでその施設周辺での活動は可能。立山弥陀ヶ原、千畳敷カール、白馬八方尾根八方池までなど。

沢あそびとは、容易な沢を利用した行動形態を指し、登山道などに隣接した溪流で行うアクティビティ。具体的には、PFD（ライフジャケット）やヘルメットを着用するなど安全を確保した上で淵や釜などで泳いだりする行為。

- ・ 沢、川に林道または登山道、遊歩道が並行してあること。
- ・ 終了点から林道または明確な登山道があること。
- ・ 滝がないこと、あるいは滝は容易に高巻き・迂回できること。沢を遡行することはできない。
- ・ 淵、釜での行動は許容されるが、足の立たない淵、釜は原則通らない。
沢登り・沢歩きはできない。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
無雪期自然観察ルートガイディング 自然解説技術、安全管理技術	日本国内	2日	¥41,800	免除規定 (注1)
延べ日数計		2日		

(注1) 認定養成指導者による同等の検定を経て免除ができます。この場合、11,000円の審査料となります。

●実技検定試験内容

検定科目	検定内容
無雪期自然観察ルートガイディング 自然解説技術、安全管理技術	① 自然についての知識 ② 自然解説技術 ③ 環境に対する配慮 ④ ガイディングに適切な服装と装備 ⑤ 出発準備 ⑥ ガイディング技術 ⑦ 安全管理・危急時対応 ⑧ 水難事故防止のための基礎知識
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を実施する場合があります。

●各科目の有効年数

一次試験を除く、各実技科目・講習会の合格有効年数は、合格日から3年目の当該日までとなります。

※有効年数が切れた科目は再受験が必要です。全科目有効年数内に合格しますと資格認定となります。

自然ガイド ステージⅡ

●職能範囲

国内において四季を通じて、人間社会と隣接する里地・里山・山地・高原において自然、歴史、民俗等を解説する自然ガイド行為を行うことができます。

※自然ガイド単独資格者は、ピークハントが主たる目的となる登山ガイド業務は行えません。

<活動エリア>

雪の無い時期の高原、山野、里地里山、アクティビティの対象として沢を使う沢あそび、および積雪期の里地里山。高原、山野は、森林限界を越えない範囲といたします。

積雪期の日光戦場ヶ原、霧ヶ峰などの交通機関と隣接する地帯となります。

沢あそびとは、容易な沢を利用した行動形態を指し、登山道などに隣接した溪流で行うアクティビティ。具体的には、PFD(ライフジャケット)やヘルメットを着用するなど安全を確保した上で淵や釜などで泳いだりする行為。

- ・ 沢、川に林道または登山道、遊歩道が並行してあること。
- ・ 終了点から林道または明確な登山道があること。
- ・ 滝がないこと、あるいは滝は容易に高巻き・迂回できること。沢を遡行することはできない。
- ・ 淵、釜での行動は許容されるが、足の立たない淵、釜は原則通らない。

沢登り・沢歩きはできない。

●他の資格取得者の受験について

・ 登山ガイドステージⅠを取得した者が自然ガイドステージⅡを取得する場合は、筆記試験において自然ガイドステージⅠの専門科目2科目を受験し、自然ガイドステージⅡの「積雪期自然観察ルートガイディング 自然観察指導技術、安全管理技術」検定を受験します。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
積雪期自然観察ルートガイドング 自然解説技術、積雪期安全管理技術	日本国内	2日	¥48,400	免除規定 (注1)
延べ日数計		2日		

(注1) 認定養成指導者による同等の検定を経て免除することができます。この場合、11,000円の審査料となります。

●実技検定試験内容

検定科目	検定内容
積雪期自然観察ルートガイドング 自然解説技術、安全管理技術	<ul style="list-style-type: none"> ① 積雪期の自然についての知識 ② 解説技術 ③ 環境に対する配慮 ④ ガイディングに適切な服装と装備 ⑤ 出発準備について ⑥ ガイディング技術 ⑦ 安全管理・危急時対応

※危急時対応技術講習を修了していない方は、積雪期自然観察ルートガイドング、自然解説技術、安全管理技術受講前に危急時対応技術講習を修了する必要があります。

●各科目の有効年数

一次試験を除く、各実技検定・講習会の合格有効年数は、合格日から3年目の当該日までとなります。

※有効年数が切れた科目は再受験が必要です。全科目有効年数内に合格しますと資格認定となります。

認定養成指導者による同等の検定：

本会の認定する養成指導者は、本会の検定審査方法に従って、同等の実技検定試験を実施することができます。この認定養成指導者による免除申請科目の有効年数は、同等検定科目修了日より3年間となります。

一次試験に合格していないと、当会への「免除申請」は行えません。

免除申請方法につきましては、当会ホームページの「ガイド養成指導」ページをご確認ください。(https://jfmga.jp/shikaku_guidance.php)

(参考：本会のガイド養成指導者認定に関する規定)

登山ガイド ステージ I

●職能範囲

国内の無雪期においての山地・山岳地帯での整備された登山道で、登山ガイド行為を行うことができます。

＜活動エリア＞

無雪期の一般登山道。登山地図の実線で示された登山道。アクティビティの対象として沢を使う沢あそび。破線、難路と示された登山道は除きます。

テント泊や避難小屋泊も可能。

沢あそびとは、容易な沢を利用した行動形態を指し、登山道などに隣接した溪流で行うアクティビティ。具体的には、PFD（ライフジャケット）やヘルメットを着用するなど安全を確保した上で淵や釜などで泳いだりする行為。

- ・ 沢、川に林道または登山道、遊歩道が並行してあること。
- ・ 終了点から林道または明確な登山道があること。
- ・ 滝がないこと、あるいは滝は容易に高巻き・迂回できること。沢を遡行することはできない。
- ・ 淵、釜での行動は許容されるが、足の立たない淵、釜は原則通らない。

沢登り・沢歩きはできない。

●他の資格取得者、および現在受験中の者の受験について

登山ガイドステージII資格を受験申請している方は、登山ガイドステージI資格への受験変更を希望する場合、既に筆記試験、および実技試験「無雪期ルートガイディング自然解説技術」検定、「安全管理技術」検定に合格、および「危急時対応技術」義務講習を修了していれば、所定の申請書を提出することにより、登山ガイドステージI資格の認定が可能となります。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
無雪期ルートガイディング 自然解説技術	日本国内	2日	¥48,400	免除規定（注1）
安全管理技術	日本国内	2日	¥48,400	
延べ日数（選択科目を除く）		4日		

（注1）認定養成指導者による同等の検定を経て免除することができます。この場合、11,000円の審査料となります。

●実技検定試験内容

検定科目	検定内容
無雪期ルートガイディング 自然解説技術	① ガイディングに適切な装備について ② 出発準備について ③ ガイディング能力（行動） ④ ガイディング能力（自然解説・環境配慮）

安全管理技術	① 顧客へのロープ結束、簡易ハーネスの作成 ② 固定ロープの設置（横方向） ③ 下降技術 ④ 引き上げ技術 ⑤ ザックを利用した背負い搬送 ⑥ ツエルトの設営 ⑦ 淡水域での水難事故防止のための基礎知識
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を行う場合がある。

●各科目の有効年数

一次試験を除く、各実技検定・講習会の合格有効年数は、合格通日から3年目の当該日までとなります。

※有効年数が切れた科目は再受験が必要です。全科目有効年数内に合格しますと資格認定となります。

登山ガイド ステージⅡ

●職能範囲

国内で四季を通じて整備された登山道において登山ガイド行為を行うことができます。但し、スキーガイドを行う場合は別にスキーガイド資格を取得する必要があります。

<活動エリア>

無雪期の一般登山道。登山地図の実線で示されたコース。アクティビティの対象として沢を使う沢あそび。破線、難路と示された登山道は除きます。

テント泊や避難小屋泊も可能。

沢あそびとは、容易な沢を利用した行動形態を指し、登山道などに隣接した溪流で行うアクティビティ。具体的には、PFD（ライフジャケット）やヘルメットを着用するなど安全を確保した上で淵や釜などで泳いだりする行為。

- ・ 沢、川に林道または登山道、遊歩道が並行してあること。
- ・ 終了点から林道または明確な登山道があること。
- ・ 滝がないこと、あるいは滝は容易に高巻き・迂回できること。沢を遡行することはできない。
- ・ 淵、釜での行動は許容されるが、足の立たない淵、釜は原則通らない。

沢登り・沢歩きはできない。

積雪期は、森林限界を越えないで、ロープウェイなど冬季も開設されている施設から2～3時間の日帰りできる範囲。

例：北八ヶ岳中山峠～高見石、縞枯山、北横岳まで。天狗岳・硫黄岳は範囲外。

●登山ガイドステージⅠ資格取得者の受験について

登山ガイドステージⅠ資格を取得後に、登山ガイドステージⅡ資格の取得を希望する場合は、マイページ（検定・研修申込サイト）の「新規資格取得」ページより移行申請を行ってください。

この場合、実技試験「積雪期ルートガイディング 自然解説技術」検定および、「積雪期安全管理技術」検定を受験することになります。筆記試験の再受験は必要ございません。

登山ガイドステージⅡ資格の実技科目の免除申請を希望する場合、上記の移行申請後でない、免除申請を行うことはできません。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
無雪期ルートガイディング 自然解説技術	日本国内	2日	¥48,400	免除規定（注1）
積雪期ルートガイディング 自然解説技術	日本国内	3日	¥63,800	免除規定（注1）
安全管理技術	日本国内	2日	¥48,400	
積雪期安全管理技術	日本国内	3日	¥66,000	免除規定（注1） （注2）（注3）

（注1）認定養成指導者による同等の検定を経て免除することができます。この場合、11,000円の審査料となります。

（注2）日本雪崩ネットワークのレベル1修了者は養成指導者による推薦をもって免除申請することができます。この場合、11,000円の審査料となります。免除が適用された後は、本会の他資格の受験においても、日本雪崩ネットワークレベル1修了者が免除申請可能な検定科目については、同様に免除が適用されます。

（注3）積雪期安全管理技術については、「積雪期安全管理技術」の養成指導講座の受講、あるいは、日本雪崩ネットワークのレベル1を修了していれば、養成指導者による推薦をもって免除申請することができます。

●実技検定試験内容

検定科目	検定内容
無雪期ルートガイディング 自然解説技術	① ガイディングに適切な装備について ② 出発準備について ③ ガイディング能力（行動） ④ ガイディング能力（自然解説・環境配慮）
積雪期ルートガイディング 自然解説技術	① 雪上行動技術 積雪時の歩行 ② ガイディングに適切な装備等・出発準備について ③ ガイディング能力（行動） ④ ガイディング能力（積雪期ルートガイディング） ⑤ ガイディング能力（自然解説・環境配慮） ⑥ 出発準備・行動時の配慮 ⑦ 積雪期のロープ使用 ⑧ ツェルトの設営 ⑨ 雪洞技術
無雪期安全管理技術	① 顧客へのロープ結束、簡易ハーネスの作成 ② 固定ロープの設置（横方向） ③ 下降技術 ④ 引き上げ技術 ⑤ ザックを利用した背負い搬送 ⑥ ツェルトの設営 ⑦ 淡水域での水難事故防止のための基礎知識

積雪期安全管理技術	<p>雪崩基礎</p> <p>① 雪の観察</p> <p>② 雪崩対策 インシデントマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形の把握 ・脆弱性の高い積雪構造の把握 ・ビーコンによる検索 50m 四方 2 個埋没 60 cm 5 分 シグナルサーチ、コースサーチ、ファインサーチ ・プローブによる探索 スパイラル、スポット、ポジショニング、ラインプロービング <p>③ 冬特有の危険に対する対処法（リスクの軽減）</p>
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を行う場合があります。

●各科目の有効年数

一次試験を除く、各実技検定・講習会の合格有効年数は、合格日から3年目の当該日までとなります。

※有効年数が切れた科目は再受験が必要です。全科目有効年数内に合格しますと資格認定となります。

●結果通知に関しては合否のみであり、内容、詳細の問い合わせについては対応いたしかねます。

認定養成指導者による同等の検定：

本会の認定する養成指導者は、本会の検定審査方法に従って、同等の実技検定試験を実施することができます。この認定養成指導者による免除申請科目の有効年数は、同等検定科目修了日より3年間となります。

一次試験に合格していないと、当会への「免除申請」は行えません。

免除申請方法につきましては、当会ホームページの「ガイド養成指導」ページをご確認ください。(https://jfmga.jp/shikaku_guidance.php)

(参考：本会のガイド養成指導者認定に関する規定)

登山ガイド ステージⅢ

●職能範囲

国内で無雪期を通じて登山道が示されているコースの登山ガイド行為を行うことができます。積雪期においては、通年営業を行う施設（山小屋、レストハウスなど）から容易に行動できる領域で岩稜、急峻な雪稜を持たない範囲をガイドが可能です。

但し、スキーガイドを行う場合は別にスキーガイド資格を取得する必要があります。

<活動エリア>

無雪期の登山道。（バリエーションルートは除く）

テント泊や避難小屋泊を利用する縦走コース、沢歩きなど。

沢歩きとは、基本的には日帰りで、沢を歩きで遡行することを指す。滝の登攀や高巻き、釜の泳ぎがある沢登りではなく、溪谷を歩いて遡行して稜線や山頂を目指す形態とする。

滝を登る場合は、傾斜の緩い斜滝（高低差 10m程度）を対象とする。

- ・ 沢、川と林道または登山道が隣接しており、緊急時退避が可能なこと。
- ・ 登山道と並行していない場合であっても終了点から明確な登山道があること。
- ・ 大きな滝（目安として高さ 20m 以上）がない。あっても高巻道が明瞭なこと。
- ・ 稜線（山頂）まで登山道あるいは明瞭な踏み跡があり登り詰めることが容易なこと。

1日の遡行時間は5～6時間程度。沢登りはできない。

積雪期は、山小屋から日帰り可能な容易な雪山登山。

例：天狗岳・硫黄岳・蓼科山、北ア西穂独標まで など。

詳細については、自然ガイド・登山ガイドにおけるガイド対顧客標準人数比率に係る規定を参照してください。

●受験申請（書類審査時提出書類）

書類審査申請（書類審査料 5,500円）オンライン申請

①ガイド歴・登山歴報告書

ガイド歴以外に、バリエーションルート、沢登り、積雪期の雪山登山の経験を必ず明記してください。

（遡って記載できるのは5年前までの記録となります）

●書類審査内容

- ・ 提出書類の整合性、登山歴（ガイド歴）の審査を行います。
- ・ 書類に虚偽があった場合は、実技検定に進んでいたとしても遡って不合格とします。
- ・ 書類審査日から5日以内に可否をマイページ（検定・研修申込サイト）の受験・受講履歴ページに掲載いたします。

●受験の流れ

・ 書類審査→ロープワーク技術と岩稜歩行技術までは順番に受験・合格しなければ以降の検定は申込み・受験できません。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
ロープワーク技術と岩稜歩行技術	日本国内	2日	¥61,600	
無雪期ルートガイディング	日本国内	3日	¥72,600	
積雪期ルートガイディング	日本国内	3日	¥72,600	

●実技検定試験内容

検定科目	検定内容
ロープワーク技術と岩稜歩行技術	① 装備・体力の確認 ② 岩稜歩行技術 ③ ショートロープ技術
無雪期ルートガイディング	① 無雪期でのルートガイディング技術 ② 無雪期でのルート維持とルートファインディング技術 ⑤ テント泊でのクライアントケア技術
積雪期ルートガイディング	① 積雪期のルートガイディング技術と歩行技術 ② 雪上での用具の使い方の指導能力 ③ 積雪期のセルフレスキュー ④ 積雪期の安全管理技術 ⑤ 雪崩対策 ⑥ 積雪期のショートローピング技術

●資格取得までの有効年数

書類審査合格後から3年度以内に資格を取得する必要があります。

継続受験者についても同様に、書類審査に合格した年度を起点として3年度以内に資格を取得する必要があります。ただし移行措置として、2023年度までに書類審査に合格している場合は、2026年度末までを有効年数内とします。

2026年度以降は、書類審査を除く各科目の合格有効年数は設けません。

有効年数内に資格を取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となります。

山岳ガイド資格・スキーガイド資格

受験者義務講習

山岳ガイドステージⅠ資格・スキーガイドステージⅠ資格限定必須項目

講習項目	講習地	日数	講習受講料	備考
ファーストエイド講習会	日本国内	4日	¥52,800	検定は行なわない

●受験者義務研修内容

講習科目	講習内容
ファーストエイド講習会	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション プレテスト ② FAのための人体の基礎知識 ③ 重症度と緊急度の評価（講義・実習） ④ 蘇生の基礎 ⑤ 蘇生の実習（BLS・AED） ⑥ 特殊病態 ⑦ 低体温症、凍傷、熱中症 ⑧ 外傷の基礎 ⑨ 外傷実習 ⑩ 外傷総合実習 ⑪ 山での病気、突然死、薬 ⑫ 高山病 ⑬ 質疑応答 ⑭ 野外シナリオロールプレイ ⑮ シナリオ振り返り ⑯ ポストテスト <p>これらの研修講師は、救急科専門医の資格を持つ医師、医療従事者が行っています。</p>

受験者義務講習会は、ガイドの安全管理にとって重要な科目となっています。本科目を受講しない場合にはスキーガイドステージⅠ検定は受験・申込ができないため、予め講習会受講日程をよく把握してください。

山岳ガイドステージ I

●職能範囲

通年の国内山岳と縦走路のある岩稜コース。国内にて一年を通して登山ルートガイド行為を行うことができます。

但し、岩壁登攀、雪稜バリエーション、積雪期の岩稜バリエーション、フリークライミング講習は不可。別途「認定資格範囲規定」を参照

<具体的業務範囲例>

無雪期：西穂～奥穂縦走、奥穂～槍縦走、劔岳別山尾根～北方稜線、北鎌尾根、前穂北尾根、劔岳源次郎尾根、ハッ峰縦走など。

積雪期：ハヶ岳縦走（赤岳～硫黄岳）阿弥陀岳南稜、北稜、四季を通じた北海道の山々、東北の山々など。

ポピュラーな沢登り（滝の登攀はシングルピッチまで）ルート。

また、スキーガイドを行う場合は別にスキーガイド資格を取得する必要があります。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

講習・検定科目	検定地	日数	検定試験料
無雪期講習 1	日本国内	5 日	¥101,200
無雪期講習 2・検定	日本国内	4 日	¥82,500
積雪期講習・検定	日本国内	4 日	¥82,500
残雪期講習・検定	日本国内	4 日	¥82,500
雪崩対策技術検定 *2 *3	日本国内	4 日	¥83,600

*1 他の資格で一次試験合格している場合は、共通科目が免除されるため受験料は¥16,500 になります。

*2 日本雪崩ネットワークのレベル 1 修了者は養成指導者による推薦をもって免除申請することができます。この場合、11,000 円の審査料となります。免除が適用された後は、本会の他資格の受験においても、日本雪崩ネットワークレベル 1 修了者が免除申請可能な検定科目については、同様に免除が適用されます。

*3 2026 年度は実施されません。

●受験者義務講習および講習受講料（全て税込表示）

講習項目	講習地	日数	講習受講料	備考
ファーストエイド講習会	日本国内	4 日	¥52,800	検定は行わない

●受験の流れ

・書類審査→体力・適性試験→筆記試験→無雪期講習1→無雪期講習2・検定までは全て順番に受験、合格する必要があります。また、合格していなければ次の検定には申込できません。

・積雪期講習・検定並びに残雪期講習・検定の順番は問いません。但し無雪期講習2・検定まで合格している必要があります。

※「山岳～国際・スキーフロー」を参照してください。

●書類審査内容

・提出書類の整合性、登山歴（ガイド歴）の審査を行います。

・書類審査日から約10日以内に合否通知をマイページ（検定・研修申込サイト）の受験・受講履歴ページに掲載いたします。

・書類審査合格者のみ以降の一次試験（体力・適性試験）を受験できます。

●体力・適性試験

・以下の試験を行います。

①自然の岩場にて受験資格レベルの登攀能力。

「トラッド及びスポーツルートにて5.10aまで安全にリードできること。

登山靴を履いてIV級-まで安全にリードできること。」

②20kg程度の荷物を背負い、コースタイムの登山道を80%前後の時間内での登下降。

・試験日から7日以内に合否通知をマイページ（検定・研修申込サイト）の受験・受講履歴ページに掲載いたします。

・合格者のみ以降の一次試験（筆記試験）を受験できます。

●有効年数

書類審査合格後から5年度以内に資格を取得する必要があります。

有効年数内に資格を取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となります。

山岳ガイドステージⅡ

●職能範囲

日本国内で季節を問わず全ての地域、地形でのガイドおよびインストラクター行為を行うことができます。

但し、スキーガイドを行う場合は別にスキーガイド資格を取得する必要があります。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

講習・検定科目	検定地	日数	検定試験料
無雪期講習	日本国内	4日	¥82,500
クライミング講習・検定	日本国内	4日	¥82,500
積雪期講習・検定	日本国内	4日	¥82,500
残雪期講習・検定	日本国内	4日	¥82,500

●受験の流れ

・書類審査→無雪期講習→クライミング講習・検定までは全て順番に受験、合格する必要があります。また、合格していなければ次の検定には申込できません。

・積雪期講習・検定並びに残雪期講習・検定の順番は問いません。但しクライミング講習・検定まで合格している必要があります。

※「山岳～国際・スキーフロー」を参照。

●書類審査内容

- ・提出書類の整合性、登山歴（ガイド歴）の審査を行います。
- ・書類審査日から10日以内に可否通知をマイページ（検定・研修申込サイト）の受験・受講履歴ページに掲載いたします。
- ・書類審査合格者のみ以降の試験を受験できます。

●無雪期講習

・書類審査合格後最初に受ける必要があります。これに修了しないと以降の講習、検定を受けることができません。また、修了していなければ次の検定には申込できません。

・無雪期講習のみ、過去にこの講習を修了した者でも、受験中の希望者は再度この講習会を受講することができます。

●クライミング講習・検定、積雪期講習・検定、残雪期講習・検定、雪崩対策技術検定

- ・無雪期講習に修了した者は順番を問わず受講・受験できます。
- ・試験日から約1ヶ月以内に可否通知をマイページ（検定・研修申込サイト）の受験・受講履歴ページに掲載いたします。

●有効年数

書類審査合格後から5年度以内に資格を取得する必要があります。

有効年数内に資格を取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となります。

スキーガイド資格

スキーガイドステージⅠ

●職能範囲

ピッケル、アイゼン、ロープなどを使用せず登高できる雪山で、スキー場・一般道路終点等から登高時間2時間かつ標高差400mの範囲内で斜度30度以下のエリア。

帰路に50m以上の登り返しがないこと。山中泊は含まない。ガイドレシオ 最大1：8

●受験資格

登山ガイドステージⅡ・Ⅲあるいは山岳ガイドステージⅠ・Ⅱ資格を持ち、バックカントリースキー歴3年以上、100日以上を経験を有する者。また、本会正会員として、既得資格が有効期限内であること。

スキーガイドステージⅠ検定（5日間）申し込みまでにファーストエイド講習会4日間を受講済であること。また、雪崩対策技術検定に合格、もしくはJAN雪崩従事者レベル1受講を受講し、免除申請済みであること。

●受験の流れ

①筆記試験

※JAN雪崩従事者レベル1の免除申請は、筆記試験合格後で行えません。

②スキーガイドステージⅠ検定（5日間）受験

申し込み時までにファーストエイド講習受講済であること。また、雪崩対策技術検定に合格、もしくはJAN雪崩従事者レベル1受講を受講し、免除申請済みであること。

※2026年度は雪崩の検定は実施しないので日本雪崩ネットワークの養成指導を受けて免除申請してください。

●有効年数

一次試験合格後から5年度以内に資格を取得する必要があります。

※有効年数内に資格取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、筆記試験から再受験となります。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
雪崩対策技術	日本国内	4日	¥83,600	免除規定（注1）
スキーガイドステージⅠ	日本国内	5日	¥90,200	

（注1）日本雪崩ネットワークのレベル1修了者は認定養成指導者による推薦を持って免除申請することができます。この場合、11,000円（税込）の審査料となります。免除が適用された後は、本会の他資格の受験においても、日本雪崩ネットワークレベル1修了者が免除申請可能な検定科目については、同様に免除が適用されません。

●受験者義務講習および講習受講料（全て税込表示）

講習項目	講習地	日数	講習受講料	備考
ファーストエイド講習	日本国内	4日	¥52,800	検定は行わない

スキーガイドステージⅡ

●職能範囲

ピッケル、アイゼン、ロープなどを使用せず登高できる雪山で、スキー・スノーボードガイドを行うことができます。

残雪期においては早朝時等のピッケル・アイゼンの利用は許容されます。ただしロープの使用が必要とされる地形は除く。

緊急時におけるピッケル・アイゼン・ロープの使用はこの限りではありません。

ピッケル、アイゼン、ロープの使用が前提となるエリアは山岳ガイド資格が必要となります。

ガイドレシオ最大1：6

●受験資格

スキーガイドステージⅠ資格を持ち、正会員としてスキーガイドステージⅠガイド実務経験が1シーズン以上（10日以上）あること。且つスキーガイドステージⅡ資格のサブガイド実務経験が5日間以上あること。

2日以上の中泊（テントもしくは雪洞等、山小屋・避難小屋は除く）5本以上のスキー山行経験を有すること。

※2026年度は雪崩の検定は催行しないので日本雪崩ネットワークの養成指導を受けて免除申請してください。

※2023年度以前（スキー資格独立化）以前に付帯資格としてスキーガイドステージⅠ資格を取得している場合、雪崩対策総合技術とファーストエイド講習会4日間を受講していなくても、スキーガイドステージⅡ資格の書類審査の受験申請は可能とします。但し、この2科目を合格あるいは免除しないと、スキーガイドステージⅡ（厳冬期）～スキーガイドステージⅡ（残雪期）の申し込みはできません。

●受験の流れ

書類審査～スキーガイドステージⅡ（厳冬期）～スキーガイドステージⅡ（残雪期）の順で受験すること。残雪期科目の受験に厳冬期科目の合否は問いません。

ただし、全日程に参加すること。両科目合格で認定となります。

●有効年数

書類審査合格後から5年度以内に資格を取得する必要があります。

※有効年数内に資格取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となります。

●書類審査内容

提出書類の整合性、スキー歴（ガイド歴）の審査を行います。

書類審査日から10日以内に合否通知をマイページ（検定・研修申込サイト）の受験・受講履歴ページに掲載いたします。

書類審査合格者のみ、以降の試験を受験できます。

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定科目	検定地	日数	検定試験料
スキーガイドステージⅡ（厳冬期）	日本国内	7日	¥121,000
スキーガイドステージⅡ（残雪期）	日本国内	4日	¥71,500

フリークライミング・インストラクター資格

インドアクライミング・インストラクター

●職能範囲

国内の民間や公営の人工壁においてボルダリングとシングルピッチのスポーツルートでインストラクター、コーチ、講師としての指導行為を有償で行うことができます。

●受験資格

- ・ 満 18 歳以上で健康で体力があり、本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数3年以上の者。
- ・ 本会正会員の場合は、既得資格が有効期限内であること。
- ・ 技術水準：
人工壁で下記の経験を有する。
* 5.12c 以上のレッドポイント 10 本以上、5.12a 以上のオンサイト 10 本以上。

●受験の流れ

①書類審査

↓ * 書類審査合格者は筆記試験を受験できます。

②筆記試験（1日）

↓ * 上記科目の合格者は実技適性試験を受験できます。

③実技適性試験（2日）

↓ * 上記科目の合格者はセルフレスキュー技術義務講習を受講できます。

④セルフレスキュー技術義務講習（2日）

↓ * 上記科目の修了者は人工壁講習・検定を受験できます。

⑤人工壁講習・検定試験（2日）

⇒ 危急時対応技術講習会（2日）

* 筆記試験合格者は危急時対応技術講習会を受講できます。

●有効年数

書類審査合格後から5年度以内に資格を取得する必要があります。

※有効年数内に資格取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となります。

●実技適性試験（人工壁2日）

5.12b～c 程度でのオンサイトと 5.13a 程度でのワークトを行い、クライミング能力とビレイの実技試験を行います。

また指導者としての適性能力の試験を行います。

ボルダリング、トップロープクライミング、リードクライミング、ビレイ、ロープワーク等クライミングに対する理解度と安全管理に関する認識。用具の知識。ルールとマナー等。

●セルフレスキュー技術義務講習（全て税込表示）

講習科目	講習場所	日数	費用	備考
初動対応、基本技術、引き上げ降ろし、搬送、リスクマネジメントなど	日本国内	2日	¥60,500	講義を重点に実施

※過去にこの講習を修了されていても、受験中の希望者は再度この講習会を受講することができます。

●人工壁講習・検定の内容および費用（全て税込表示）

講習・検定内容	講習・検定場所	日数	費用	備考
ボルダリング、トップロープ、リードクライミングの指導、課題設定、ビレイの指導方法。人工壁での安全管理、レスキュー技術など	日本国内	2日	¥60,500	

●危急時対応技術講習会（全て税込表示）

講習項目	講習地	日数	講習料	備考
危急時対応技術講習	日本国内	2日	¥36,300	

※危急時対応技術講習会は、インストラクターの安全管理にとって重要な科目であり受講義務になっています。本科目を受講しない場合には認定通知書が発行されないため、予め講習会受講日程をよく把握しておいてください。

※一次試験合格者は危急時対応技術講習会を受講できます。

※他資格を所持していて、既に危急時対応技術講習会、もしくはファーストエイド講習会を受講している場合はこれを免除します。

スポーツクライミング・インストラクター

●職能範囲

国内において人工壁、及びフリークライミングの岩場として認識されているエリア（注1）でボルダリングとシングルピッチのスポーツルート（注2）をインストラクター、コーチ、講師として有償で指導行為を行うことができます。

*注1)・アプローチが2時間以内の岩場で一般ガイドブックやクライミング雑誌、山岳雑誌などに掲載された岩場。また未公開の岩場であっても地権者や管理者などの了承を得て使用されている岩場でインストラクションなどの行為が認められている岩場。

・危急時に救助要請や自力の救助、搬出などの事故対応が可能なエリアであること。

・北、南、中央アルプスやそれに準じた山岳地域の壁は不可。

・シークレットエリアなどで地権者やローカルクライマーの意向に反するところは不可。

*注2) ほぼすべてのプロテクションがボルトで構成されているが、1～2個のカムディバイスを安全管理のために補助的に使うルートに関してはスポーツルートとみなす。なお、旧スポーツ資格（2023年度までに書類選考に合格し、その受験期間中に合格した者を含む）及び旧シングルピッチ資格からスポーツクライミング・インストラクター資格へ呼称変更により自動移行した者は、それぞれ旧資格での職能範囲を認めます。

●受験資格

- ・満18歳以上で健康で体力があり、本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数3年以上の者。
- ・本会正会員の場合は、既得資格が有効期限内であること。

・技術水準：

人工壁：下記の経験を有する。

* 5.12c 以上のレッドポイント 10 本以上、5.12a 以上のオンサイト 10 本以上。

岩場：スポーツルートで下記の経験を有する。

* 5.12c 以上のレッドポイント 10 本以上、5.12a 以上のオンサイト 10 本以上。

●受験の流れ

①書類審査

↓ * 書類審査合格者は筆記試験を受験できます。

②筆記試験（1日）

↓ * 上記科目の合格者は実技適性試験を受験できます。

③実技適性試験（2日）

↓ * 上記科目の合格者はセルフレスキュー技術義務講習を受講できます。

④セルフレスキュー技術義務講習（2日）

↓ * 上記科目の修了者は人工壁講習・検定を受験できます。

⑤人工壁講習・検定試験（2日）

↓ * 上記科目の合格者はクライミング技術と安全管理を受験できます。

⑥クライミング技術と安全管理：講習・検定試験（3日）

↓ * 上記科目の合格者はセルフレスキュー技術を受験できます。

⑦セルフレスキュー技術：講習・検定試験

（4日間の設定期間中の実施可能な連続した3日間で行います）

⇒ 危急時対応技術講習会（2日）

* 筆記試験合格者は危急時対応技術講習会を受講できます。

●有効年数

書類審査合格後から5年度以内に資格を取得する必要があります。

※有効年数内に資格取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となります。

●実技適性試験（人工壁2日）

5.12b～c 程度でのオンサイトと 5.13a 程度でのワークトを行い、クライミング能力とビレイの実技試験を行う。

また指導者としての適性能力の試験を行う。

ボルダリング、トップロープクライミング、リードクライミング、ビレイ、ロープワーク等クライミングに対する理解度と安全管理に関する認識。用具の知識。ルールとマナー等。

●セルフレスキュー技術義務講習（全て税込表示）

講習科目	講習場所	日数	費用	備考
初動対応、基本技術、引き上げ降ろし、搬送、リスクマネジメントなど	日本国内	2日	¥60,500	講義を重点に実施

※過去にこの講習を修了されていても、受験中の希望者は再度この講習会を受講することができます。

●講習・検定試験および費用（全て税込表示）

講習・検定科目	講習場所	日数	費用	備考
人工壁	日本国内	2日	¥60,500	
＝上記科目の合格者はクライミング技術と安全管理を受験できる＝				
クライミング技術と安全管理	日本国内	3日	¥71,500	
＝上記科目の合格者はセルフレスキュー技術を受験できる＝				
セルフレスキュー技術	日本国内	3日	¥96,800	4日間の設定期間中の実施可能な連続した3日間
延べ日数		8日		

●講習・検定試験内容

講習・検定科目	講習・検定内容
人工壁	ボルダリング、トップロープ、リードクライミングの指導、課題設定、ビレイの指導方法、人工壁での安全管理、レスキュー技術など
クライミング技術と安全管理および指導法	①事前説明 諸注意（顧客の安全管理、天候等の自然環境、岩場までのアプローチ、岩場の状況）・ルールとマナー ②クライミング技術 スポーツ5.11a～5.12a程度 トラッド5.10a～d程度 ③支点の構築技術（ビレイステーションとカム類等） ④確保技術（リードとトップロープ） ⑤懸垂下降と仮固定 ⑥用具の説明 ⑦指導法 ⑧安全管理（危機管理、顧客のケア）
セルフレスキュー技術	①事故発生時の対応 ②基本技術 ③搬送技術 ④引き上げ技術（2：1、3：1） ⑤降ろし技術 ⑥自己脱出技術 ⑦確保技術（ロワーダウン等）
机上講義： 本会の組織と資格制度について、職業倫理規範と安全管理責任、リスク・マネジメント、確保理論、過去の事故検証等（各項目約1時間、クライミング技術と安全管理およびレスキュー講習時に行う）	

● 危急時対応技術講習会（全て税込表示）

講習項目	講習地	日数	講習料	備考
危急時対応技術講習	日本国内	2日	¥36,300	

※危急時対応技術講習会は、インストラクターの安全管理にとって重要な科目であり受講義務になっています。本科目を受講しない場合には認定通知書が発行されないの、予め講習会受講日程をよく把握しておいてください。

※一次試験合格者は危急時対応技術講習会を受講できます。

※他資格を所持していて、既に危急時対応技術講習会、もしくはファーストエイド講習会を受講している場合はこれを免除します。

フリークライミング・インストラクター

● 職能範囲

国内において人工壁、及びフリークライミングの岩場として認識されているエリア（注1）でボルダリング、シングルピッチ、マルチピッチのルート、スポーツルート、トラッドルートを問わずインストラクター、コーチ、講師として有償で指導行為を行うことができます。

*注1)・アプローチが2時間以内の岩場で一般ガイドブックやクライミング雑誌、山岳雑誌などに掲載された岩場。また未公開の岩場であっても地権者や管理者などの了承を得て使用されている岩場でインストラクションなどの行為が認められている岩場。

- ・ 危急時に救助要請や自力の救助、搬出などの事故対応が可能なエリアであること。
- ・ 北、南、中央アルプスやそれに準じた山岳地域の壁は不可。
- ・ シークレットエリアなどで地権者やローカルクライマーの意向に反するところは不可。

● 受験資格

- ・ 満18歳以上で健康で体力があり、本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数5年以上の者。
- ・ 本会正会員の場合は、既得資格が有効期限内であること。
- ・ 技術水準：

人工壁：下記の経験を有する。

* 5.12c以上のレッドポイント10本以上、5.12a以上のオンサイト10本以上。

岩場：スポーツルートで下記の経験を有する。

* 5.12c以上のレッドポイント10本以上、5.12a以上のオンサイト10本以上。

トラッドルート

* 5.11c以上のマスタースタイルによる完登10本以上。

マルチピッチ

5ピッチ以上のマルチピッチルート（*注1）を10本以上完登していること（*注2）。

*注1) 5.10a以上を3ピッチ以上含み、5.10a以上を含む全体の5割以上のピッチをリードしていること。（ソロは除く）

*注2) 完登している10本のうち5本以上はトラッド主体のルートであること。

●受験の流れ

①書類審査

↓ * 書類審査合格者は筆記試験を受験できます。

②筆記試験（1日）

↓ * 上記科目の合格者は実技適性試験を受験できます。

③実技適性試験（2日）

↓ * 上記科目の合格者はセルフレスキュー技術義務講習を受講できます。

④セルフレスキュー技術義務講習（2日）

↓ * 上記科目の修了者は人工壁講習・検定を受験できます。

⑤人工壁講習・検定試験（2日）

↓ * 上記科目の合格者はクライミング技術と安全管理を受験できます。

⑥クライミング技術と安全管理：講習・検定試験（3日）

↓ 上記科目の合格者はセルフレスキュー技術を受験できます。

⑦セルフレスキュー技術：講習・検定試験

（4日間の設定期間中の実施可能な連続した3日間で行います）

↓ * 上記科目の合格者はマルチピッチとワークレスキュー技術を受験できます。

⑧マルチピッチクライミングとワークレスキュー技術：講習・検定試験（4日）

⇒ 危急時対応技術講習会（2日）

* 筆記試験合格者は危急時対応技術講習会を受講できます。

●有効年数

書類審査合格後から5年度以内に資格を取得する必要があります。

※有効年数内に資格取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となります。

●実技適性試験（人工壁 2日）

5.12b～c程度でのオンサイトと5.13a程度でのワークトを行い、クライミング能力とビレイの実技試験を行います。

また指導者としての適性能力の試験を行います。

ボルダリング、トップロープクライミング、リードクライミング、ビレイ、ロープワーク等クライミングに対する理解度と安全管理に関する認識。用具の知識。ルールとマナー等。

●セルフレスキュー技術義務講習（全て税込表示）

講習科目	講習場所	日数	費用	備考
初動対応、基本技術、引き上げ降ろし、搬送、リスクマネジメントなど	日本国内	2日	¥60,500	講義を重点に実施

※過去にこの講習を修了されていても、受験中の希望者は再度この講習会を受講することができます。

●講習・検定試験および費用（全て税込表示）

講習・検定科目	講習場所	日数	費用	備考
人工壁	日本国内	2日	¥60,500	

= 上記科目の合格者はクライミング技術と安全管理を受験できる =

クライミング技術と安全管理	日本国内	3日	¥71,500	
=上記科目の合格者はセルフレスキュー技術を受験できる=				
セルフレスキュー技術	日本国内	3日	¥96,800	4日間の設定期間中の実施可能な連続した3日間
=上記科目の合格者はマルチピッチとワークレスキュー技術を受験できる=				
マルチピッチクライミングとワークレスキュー技術	日本国内	4日	¥99,000	
延べ日数		12日		

●講習・検定試験内容

講習・検定科目	講習・検定内容
人工壁	ボルダリング、トップロープ、リードクライミングの指導、課題設定、ビレイの指導方法、人工壁での安全管理、レスキュー技術など
クライミング技術と安全管理	*以下①を除いてスポーツクライミング・インストラクターと共通 ①クライミング技術 スポーツで5.11c~5.12a程度 トラッドで5.10a~5.10d程度
セルフレスキュー技術	①事故発生時の対応 ②基本技術 ③搬送技術 ④引き上げ技術(2:1、3:1) ⑤降ろし技術 ⑥自己脱出技術 ⑦確保技術(ローワーダウン等)
マルチピッチクライミングとワークレスキュー技術	トラッドクライミング能力 5.10c~5.11c程度
	マルチピッチ ①支点の構築(流動分散と固定分散) ②セルフビレイ ③セカンドのビレイ ④ダブルロープ操作 ⑤確保器具の解放技術 ⑥懸垂下降と仮固定
	レスキュー技術(マルチピッチでのレスキュー) ①事故発生時の対応 ②基本技術 ③搬送技術 ④引き上げ技術(2:1、3:1、9:1) ⑤降ろし技術 ⑥自己脱出技術 ⑦ロープ確保(ローワーダウン等)

机上講義 : 本会の組織と資格制度について、職業倫理規範と安全管理責任、リスク・マネジメント、確保理論、過去の事故検証等（各項目約1時間、クライミング技術と安全管理およびレスキュー講習時に行う）

●**危急時対応技術講習会（全て税込表示）**

講習項目	講習地	日数	講習料	備考
危急時対応技術講習	日本国内	2日	¥36,300	

※危急時対応技術講習会は、インストラクターの安全管理にとって重要な科目であり受講義務になっています。本科目を受講しない場合には認定通知書が発行されないので、予め講習会受講日程をよく把握しておいてください。

※一次試験合格者は危急時対応技術講習会を受講できます。

※他資格を所持していて、既に危急時対応技術講習会、もしくはファーストエイド講習会を受講している場合はこれを免除します。